

# 各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

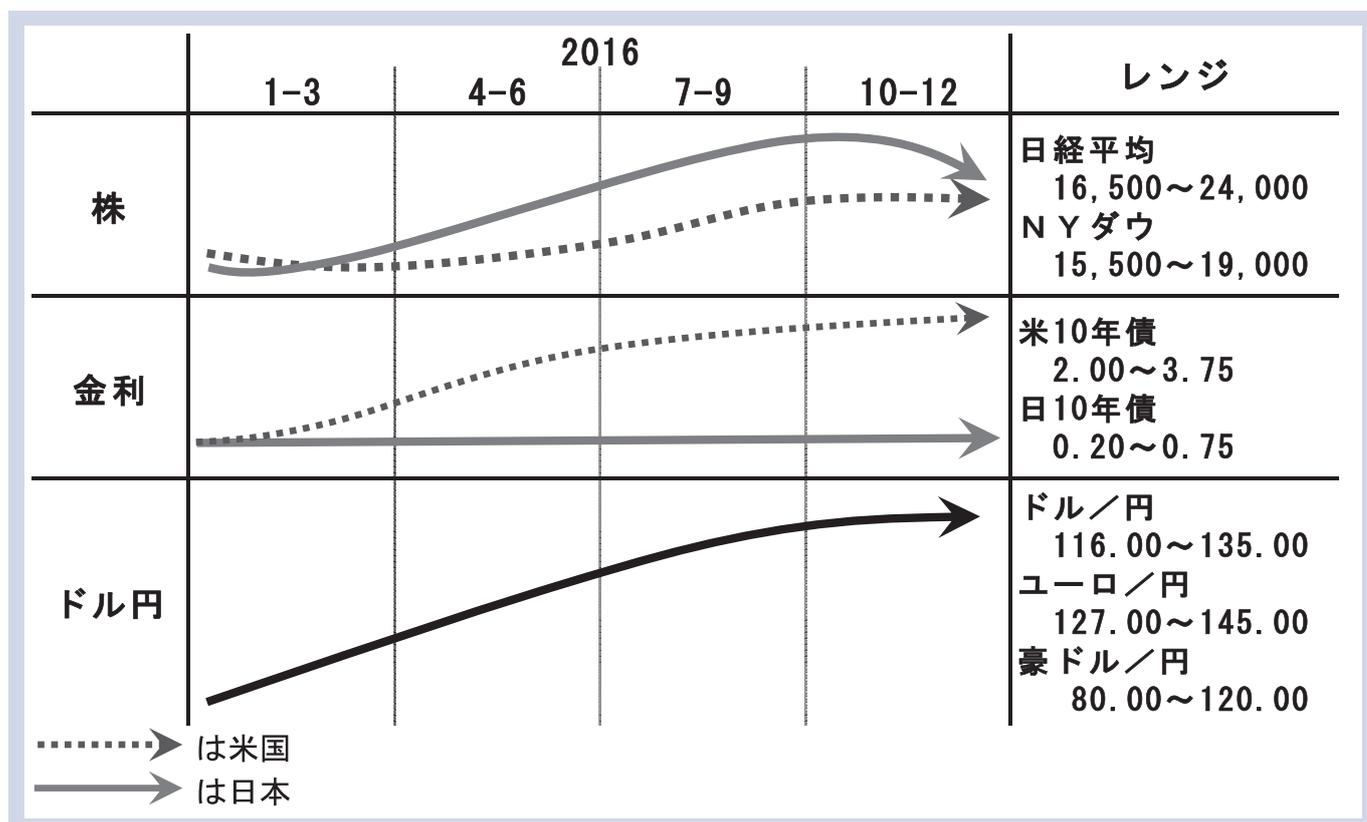
(1月6日時点)

グローバル経済・マーケット見通し

## I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	15年の景気は輸出や個人消費の低迷を主因に低調に推移した。もともと16年の景気は、①海外経済の緩やかな回復に伴う輸出の増加、②所得の増加を背景とした個人消費の持ち直し、③好調な企業収益を背景とした設備投資の増加、などが期待でき、持ち直すことが予想される。
② 米国	米国経済は、FRBによる慎重なペースでの利上げが予想されるなかで、16年半ばにかけて緩やかな成長ペースを維持する見込み。ドル高、世界経済減速によって純輸出、在庫投資が成長を抑制する一方で、雇用・所得の増加や借り入れ環境の改善等を背景とした個人消費の拡大、住宅市場の回復の持続が成長を支えると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①原油安による企業や家計負担の軽減、②雇用・所得環境の持ち直し、③追加金融緩和の効果浸透、④難民危機やテロ対応での財政緊縮ペースの緩和などを背景に、緩やかな景気拡大が続く公算が大きい。この間、一段の原油安進行によるエネルギー価格の下押しが続くことから、物価の低迷が予想される。
④ アジア・新興国	アジア経済・新興国では、中国を巡る不透明感はあるものの、失速する可能性は依然低い。その他のアジア諸国についても、国際金融市場の動向に揺さぶられやすい展開は予想されるが、政策余地は小さくないなかで引き続き底堅い状況が続く。先行きについては、世界的な資金移動の変化が景気の足かせとなる可能性に注意が必要である。

## II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。